

生涯学習教育研究センター ニュースレター No21

2006年4月28日発行

❀ 平成18年度公開講座・公開授業がスタートしました ❀

生涯学習教育研究センターが創設されてから、3度目の公開講座・公開授業がスタートしました。昨年は、公開講座制度の大幅な見直しや、公開授業の本格導入に着手してきました。本号では、これまでの実績をご紹介します。本年度の公開講座・公開授業に関して、ぜひ周知していただきたい内容を記事にしましたので、お目通りいただければと存じます。

平成18年度公開授業は38件

4月26日に開かれた運営委員会で今年度の公開講座が承認されました。今年度の講座は、全部で38件（うち有料は26件、無料12件）、募集総定員は1535人になりました。右記に公開講座実績の推移を紹介しておきます。

なお、平成17年度の公開講座収入が減少しているのは、「一般社会人向け」の講習料を従来の約1/2に、「青少年向け」の講習料を約1/4に減額したからです。この減少分は、平成17年度からの新規事業「公開授業」で補っていきける見通しです。

**すべての公開講座について
鹿児島県教育委員会と
鹿児島市教育委員会の
後援をもらっています**

昨年までは、公開講座の担当者がそれぞれ教育委員会に後援を申請してきました。たいへんご迷惑をおかけしました。その反省に基づき、今年度からはすべての公開講座について一括して後援を申請し、すでに承認を得ています。ですからビラやパンフレットなどを作られる際に「後援：鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会」と表記できます（もちろん担当者の判断によっては表記しないこともありえます）。また鹿児島県、鹿児島市の関係機関にビラなどを送付するにさいして、県庁、役所の使送便で配布してもらうこともできます。活用してください。

公開講座の推移

年度	講座数（人）			収入（万円）	
	有料	無料	合計	実績	予定
平成14年度	19			478	
平成15年度	26	3	29	555	
平成16年度	25	5	30	512	
平成17年度	27	13	41	417	
平成18年度	26	12	38		576

**公開講座収入の80%+αを
担当部局に配分します**

公開講座の収入については、原則として（1）7割を実施部局に配分し、（2）3割を生涯学習教育研究センターが管理、（3）センター管理分の3割については、毎年の運営委員会で用途を審議するということになっています。昨年度は全収入の1割だけを公開講座の宣伝費として当センターが管理し、残り9割は担当部局に再配分しました。今年度もほぼ同じ方針で配分します。ただし公開講座の収入からも大学全体の収入調整、予備費が控除されるために、まるまる9割を各部局に配分してしまうと、当センターだけで控除分をすべてかぶることになります（昨年度はこのことで年度末になってあわてました）。

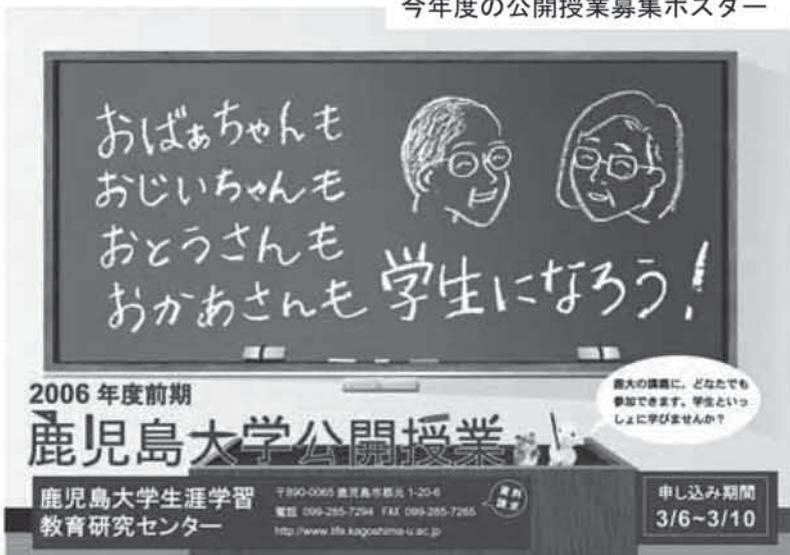
そこで今年度は（1）講座が終わって収入が確定した時点で、できるだけ早く収入の8割を配分する。（2）残りの2割はいったんセンターが預かり、（3）控除分がはっきりした時点で、1割を当センターの宣伝費とし、残りはすべて部局に改めて配分するという手続きをとります。複雑になりますがよろしくご理解ください

平成18年度前期公開授業がはじまりました

今年度の公開授業募集ポスター

今年度前期については、74科目について「公開してもよい」との申し出がありました。ありがとうございました。

実際に募集をしたところ、44科目について、実数で57人、のべ96コマの参加がありました。担当の先生方には、これから半年間、よろしくお願いいたします。また、たとえ講義への参加者がなかったとしても「開かれた大学」としての姿勢を示すことは、地域からの鹿児島大学への評価に直接につながります。



教育学部美術科卒業生 久木田龍一さんの作品
今年のポスターの評判はよかったです

宣伝方法の新しい試み

公開授業を始めてから2年目。当初の目標だった100人に順調に近づいてきました(右記参照)。今期は市電の吊し広告だけでなく、市内の有名書店や市内の社会教育施設にパンフをおいてもらったり、センター長の講演会でビラを配布しました。リピーターも少しずつ増えてきています。これからも有効な宣伝の方法についていろいろ試してみます。

公開授業の推移

年度	参加者	
	実数	のべ
平成16年後期	23	33
平成17年前期	37	50
平成17年後期	24	46
平成18年前期	57	96

先生方のご協力をお願いします

しかし公開授業の目的はただ参加者を増やすことだけではありません。地域の人たちが求めている高等教育の内容を公開するために、地域の人たちの代弁者として、当センターが学内のコンセンサスを積極的に作り出すべき時期にきていると判断しています。鹿児島大学でしか提供できない質の高い講義を提供するために、先生方に個別にお願いにあがることもあるかもしれません。その折にはよろしくご理解、ご協力ください

なお、5月半ばには受講生の集いを、8~9月には公開授業の担当者の会議を予定しています。その際にはあらためてご連絡します。

公開授業の収入については従来どおり、7割を担当者の部局に、3割を当センターの管理費(宣伝費など)に配分します。

●生涯学習教育研究センターの所管が学生部になりました●

生涯学習教育研究センターの管轄が研究協力部から学生部(教務課総務係)に変わりました。同じ部に属する教育センター、留学生センターなどという連携を深めながら仕事をしていくこととなります。学部学生と一般社会人という対象こそ違うものの、「広い意味での教養教育の内容を提供する」という意味では共通する点が多々あります。生涯学習教育研究センターはそのために模索をつづけます。これからもよろしくお願いいたします。

生涯学習教育研究センター ニュースレター No22

2006年6月16日発行

❀ シニアに大学を開く！！ ❀

新年度が始まり2ヶ月が過ぎました。新しく迎えた57名の公開授業受講生も少し大学に慣れてきた頃ではと判断し、恒例となっている「公開授業受講生の集い」を召集しました。また、本年度の新規事業となります「シニア短期留学」も実施することが決まり、当センターでは早速準備に取り掛かっております。今回は、実施した二つの会合について報告したいと思います。

公開授業受講生の集い

5月31日(水)に、平成18年度前期公開授業受講生の集いを開きました(出席者は21人)。みなさんのお話を伺うと、ボランティアなどの活動をしていて、何らかの形でボランティア活動に役だてたいと考えて受講している方が意外と多かったです。

ほかにも現在の仕事に役立てるために、仕事を休んで受講している方、退職後の時間を使って、若いときに学んできたことを継続して勉強しようとしている方などさまざまでした。受講生からはこんな発言もありました。

「県外の友人たちに鹿児島のことを知らせたいと思って受講している。せっかく県外から友人たちが遊びにきて、『これは神社です、これはお寺です』としか言えなくて、情けない思いをしてきた。退職後、鹿児島に帰ってきて、せっかくの機会なので自分の生まれ育った鹿児島のことを改めて勉強しなおしたい。

「キャンパスで学生たちに会うと『おはようございます』と挨拶をされ、学生として受け入れてもらっているのだなと実感できる。かつては『社会人学生なんて国費のムダ』なんてカゲ口をたたかれた時代もあったが、今では大学が積極的に社会人を迎え入れようとしている。時代が大きく変わってきたことを感じる。

「数年前から稲盛経営セミナーを受講しているが、〈VB実践論〉になってから、講義の質が飛躍的に高くなった。学部の学生さんたちにどれくらい理解できているかよくわからないが、ビジネスの現場にいるわたしのような者にとっては、たいへん有意義な内容で、満足している。

「講義を聴くだけでテストは受けなくていいこ

とになっているが、学生と同じ気分で講義を受けたい、緊張感をもって講義に臨みたいと思っているので、あえて中間試験を受けさせてもらうことにした。結果はともかく、遊び心で学べるといい。

「同年配の友人たちにこの公開授業の話をするのだが、ほとんどは知らないでいる。今受講している講義はどれも刺激に満ちているので、もっと宣伝をしたほうがいい」、などなど。

お話を伺っていて、「公開授業の受講生の方を、ただ受講生のままにしておいてはもったいない」と思いました。大学のさまざまなイベントにボランティアとして活躍してもらったり、学部の学生たちへの知的な刺激を与える機会を設けるなど、もっと働いていただく機会を作ることができないか？ これからこういう点についても検討してみます。

懇談会が終わってからは、中央図書館に行き、図書館ガイダンスに参加してもらいました。図書館でも学術情報基盤センターでも、受講証を提示したうえで、所定に書類に記入していただければ、2-3日中に利用証を発行してもらえます。お気軽にご利用ください。



昼食をとりながら懇談。出席者は21人でした

決定 シニア短期留学プログラム

一鹿児島大学では、シニア短期留学プログラムを実施することが決まりました。これは主に県外のシニア層を対象に、2週間鹿児島に滞在してもらい、鹿児島について学んでもらうのが主旨です。平日の午前中は鹿大で講義を受講し、午後からは県内各地を実地見学してもらいます。すでに山口大学や琉球大学では昨年度から同様の企画が実施されており、ここ鹿児島大学でも今年度から実施することになりました。これから生涯学習教育研究センターが全体の企画に責任をもちながら、鹿児島市、(株)フロンティアエイジ、(株)日本旅行、県内のNPO法人などと提携しながら準備をすすめていきます。実施時期は11月下旬を予定しています。

生涯学習教育研究センターとしては、このプログラムを通して、地域のNPOや人材の育成、および、その方々が活躍できる場づくりに生かしていきたいと考えています。大学が関わる以上、単に鹿児島の魅力を発信するのみならず、鹿児島の抱えている課題も提起しつつ、地域を再生していく足がかりとなる企画にしていきたいと考えています。ただし、詳しい内容はまだ決まっていません。内容を決めるまえに、まずはセンター兼務教員と関係する教員に集まっていたいただき、いろいろなアイデアを出していただきました。

* * *

6月1日(木)に開催された「拡大兼務教員会議」では、はじめに原口センター長から次のような説明がありました。

「〈鹿児島検定〉には予想以上の参加者があった。これから上級の試験も始まる予定。また、鹿児島の地域再生人材創出の拠点「かごしまルネッサンスアカデミー」も実施が決定され、当センターもその一翼を担うことになっている。今後輩出されていく人材が活躍できる場を提供することが次なる課題だ。人材養成と同時に、人材活用のサイクルをつくっていくことも、当センターの仕事だと認識している。他方、他県に先駆けて〈鹿児島検定〉を導入したことが功を奏したように、近隣県における観光キャンペーンの実施などを視野に入れると、たとえ「拙速にすぎる」とのお叱りをうけたとしても、今年度中に実施すべきとの判断にいたった。やるからには2-3年で終わってしまうような中途半端な仕事はしたくない。今後も長く継続して、参加者が増えるようなものにしたい。日本の

〈観光の概念〉を変えてみせるような内容を提供したい。当センターとしては全力を尽くして準備にあたるので、どうかご協力ねがいたい。

お集まりいただいた方がたからは、いろいろな意見が出されました。

- ・ 地域に入りこんで実際に体験してもらうのがいちばんの学習になる。宿泊や食事も大事な要素になる。グリーンツーリズムや民泊なども取り入れたらどうか。
- ・ ただ観光のつもりで来た人の中にも、何か貢献したいと思っている人はいるはず。だたこちらから提供するだけでなく、参加者の持っている能力を鹿児島で提供してもらうようなプログラムはできないか。
- ・ 学内の学生と交流の場を設けるだけでなく、地域で活躍している若い人たちと交流できる機会をもうけたらいい。

ここで出されたアイデアのすべては実現できないでしょうが、これから準備をすすめる上で、大いに参考にさせていただきます。

20歳からのハローワーク

毎週金曜、共通教育科目「20歳からのハローワーク」を稲盛会館で開講中。
この日は、〈お菓子工房 ボンヴィヴォン〉オーナーシェフ・吉国さんのお話。
FD研修授業のひとつとして公開されました。



生涯学習教育研究センター ニュースレター No23

2007年1月12日発行

❀ 〈公開授業と公開講座〉の募集がはじまりました！ ❀

新年明けましておめでとうございます。年明けの1月3日にKKBで放映された鹿児島大学の番組はご覧いただけましたでしょうか。今回は、当センターが新規に取り組んだ事業の報告、及び、平成19年度前期公開授業と平成19年度公開講座の募集が始まりましたので、その案内をさせていただきます。どうぞお目通し願います。それでは、本年もどうぞよろしく願いいたします！

シニア短期留学
が終了しました！

生涯学習教育研究センターでは、昨年11月27日から12月8日までシニア短期留学を実施しました。これは県外の50歳以上の社会人を対象にしたプログラムで、2週間鹿児島に滞在し、おもに午前中は学内で講義を聞き、午後からは現地に赴いて現場で学ぶという日程でした。この企画を実施するにあたり、協力教員のみなさんのお知恵を拝借しただけでなく、各学部の先生方や学外の専門家方のご協力を賜りました。おかげさまで参加者にはたいへん好評でした。この場を借りてお礼申し上げます。

当初は30人の定員を予定していたのに、申込者が少なく開催も危ぶまれたこともありましたが、それでも12人の参加者がありました。しかし受講者相互のコミュニケーションもじゅうぶんとれて結果的には、少人数で開催してよかったです。プログラムの終了後、すぐに「同窓会」も組織されました。

今回のプログラムは、地元の若い人たちの作る「NPO法人かごしま探検の会」に加わっていただいたことが成功につながりました。わざわざ鹿児島に来てもらった以上、現地で若い人たちから説明してもらわなくてはもの足りません。「過密なスケジュールで引き回しすぎではないか」との懸念もありましたが、参加者のみなさんはとてもお元気で、最後まで脱落者もなく鹿児島の魅力を堪能されていました。その様子はKKB、NHKでも報道されました。



06年11月26日 シニア短期留学 開校式
参加者につられて踊りだす前学長

講義の期間中には、毎日レポートを提出してもらいました。はじめは「そんな話は聞いてないぞお」と大ブーイングでしたが、それでもみなさんまじめに提出してくださいました。これは今後の企画のための貴重な資料になります。最終日には「これからのシニア短期留学に望むこと」と題して、今回の企画で至らなかった点などについて率直に語っていただきました。「講義を聴くだけではもの足りない。短時間でもいいから質問の時間を必ず設けてほしい」、「学部の学生と意見を交換できる機会を作ってもらいたい」、「テーマを決めて研究し、発表するような形式をとってはどうか」、「先生が熱心に講義しているのに、遅刻したり眠ったりしている学生がいる」などなど、こちらが予想していた以上の高い学習意欲を示されて、とまどうこともありました。後述する公開授業の受講生からも同様の要望がありました。来年度は6月にシニア短期留学を実施する予定で、今から準備をすすめています。今回の経験を生かしなが、さらに質の高いプログラムを提供したいと思っています。

公開授業・公開講座の申請をお願いします

来年度の〈公開授業〉と〈公開講座〉の募集がはじまりました。

5段抜きのご期待

公開授業については、おかげさまでこれまでの2倍近い受講生を集めることができました。本学と同規模の大学と比べればまだまだですが、それでも「〈年齢や学歴に関係なくだれでも大学の講義を聴講できる制度＝公開授業〉が鹿児島大学でも行われている」ということが、確実に地域の方たちに知られるようになってきました。公開授業をさらに飛躍的に発展させるため来年度に向けては、南日本新聞に5段抜きの大きな広告を載せる予定です。

授業の公開をお願いします

受講生の増加に伴い、様々なニーズが寄せられるようになりました。従来は共通教育科目と教育学部の科目に集中していましたが、理学部、工学部、農学部など専門性の高い講義を受講したいという要望が増えてきています。後期公開授業受講生からのヒアリングでは「英米文学、法律学の講義を受講したい」、「医学部の講義も聞いてみたい」という要望もありました。「開かれた大学」としての姿勢を示し、受講生の選択肢を増やすためにも、これまで開放されていなかった先生方を含めて、ご協力をお願いします。

鹿大の公開講座ポリシー

公開講座については、年度当初には590万円程度の事業規模を予定していましたが、おかげさまで700万円程度の規模になりそうです。じつは昨年11月、国立系大学の生涯学習教育研究センターの集まりが大分大学で開かれ、各大学での公開講座の実情について情報交換をしてきました。本学と同規模な

がら、2000万円の規模で公開講座を実施している大学もあります(専任の事務職員がいて、専用の建物・教室を設置の大学)。

そういう大学では民間の教育機関でも対応できそうなテーマも数多く設定されています。しかし、本学のばあいには、市内に民間の教育機関もあり、他大学でもさかんに公開講座が開かれているのですから、それらと競合するテーマを設定することが適切だとは思われません。

本学ではこれまで、大学としての専門的な知識や見識に基づいた公開講座が開かれてきました。それは各実施部局の献身的な努力によって積み重ねられてきた成果です。今後ともいたずらに収入増を目的とするのではなく、「地域の課題を解決するために、大学の専門的な知的資源を提供する」という本学における公開講座の伝統を継承し、堅持していきたいと考えています。

なお、本年度の公開講座の収入については、1割を当センターで宣伝費として使用し、残りの9割を実施部局に配分します(すでに8割を配分していますが、保留分の1割についても再配分します)。

公開授業、公開講座について現在、学生部総務課から文書を回してもらっています。申請の締め切りは〈公開授業〉は2月2日、〈公開講座〉については3月5日です。重ねてご協力をお願いします。



初めての
放送講座が
放映される

1月3日午後3時20分から15分間、KKBから「鹿児島大学—地域とともに—」という番組が放送されました。これは今回初めて「放送講座」として試行的に実施したもので、鹿児島大学が費用を負担し、KKBが制作・放送しました。今のところ離島や僻地で公開講座を開催するのはたいへん困難です。そこで「たとえ短時間でもいいから、県内すべての人に貢献できる機会を設けたい」という主旨で実施してみました。今回は制作期間の都合上、当センター専任教員の小栗が、垂水市の地域再生を目的に実施した公開講座「自然学校を作ろう」をテーマにとりあげました。来年度以降も学長裁量経費がつけば、各学部が取り組んでいる地域貢献のようすを順次取り上げていきます。

なお、この番組は1月27日午前7時15分から再放送されます。
またKKBのホームページにアクセスすると動画を見ることもできます。



生涯学習教育研究センター ニュースレター No.24



2007年7月4日発行

❀ 公開授業の申請をお願いします ❀

本年度後期(公開授業)の募集がはじまりました。

ちかごろキャンパスを歩いていると、「公開授業の受講生の方だろうな」とおぼしき社会人の姿が、ちらほら見うけられるようになりました。(公開授業)は、本年度前期には、延べ受講者数約 200, 実人数 150 人になりました。当初の 5-6 倍に増加したわけです。これまで、公開授業の宣伝については頭を悩ませてきました。「こんなに良い事業をしているのに、どうしてもっと宣伝しないのか? 隠しているのか?」などとお叱りの言葉をいただいたこともあります。本年度になって受講者が急増した理由は、新聞広告の効果があつたからです。これからは受講生が増えれば、生涯学習教育研究センターへの配分額も増えます。その資源を使えば、これからは新聞広告を出せるようになって、ますます受講生は増えるでしょう「まる 3 年間かけて、経営的にもやっと軌道に乗ってきた」といえそうです。



公開授業の推移

	提供科目数	受講科目数	延べ受講者数	実人数
16 年度後期	77	19	33	
17 年度前期	65	30	40	29
17 年度後期	91	24	42	28
18 年度前期	73	39	82	53
18 年度後期	91	46	90	68
19 年度前期	70	52	198	150

しかし喜んでばかりいるわけにはいきません。急激に受講生が増えると、かつてなかったようなクレームが出てきて、大学全体のイメージを損なう結果ともなりかねません。そこで生涯学習教育研究センターでは、6月21日(木)に「公開授業 受講生の集い」を開き、受講者の不満や不安について率直なご意見を伺いました。講義がない日にもかかわらず出席して下さった方を含めて、50人以上の参加がありました。関係職員の方がたの努力のおかげで、公開授業は総体的はたいへん好評です。「30年ぶりに大学に来て若返ったような気がする」、「この歳になって大学に通えるとは思っていなかった」、「充実した授業を受けさせてもらって大変満足している」など、嬉しい言葉をたくさん頂きました。

受講生の平均年齢は約 57 歳で(女性 92 人, 平均年齢 52 歳, 男性 58 人, 平均年齢 65 歳), みなさん学習意欲がたいへん高いです。初回は「鹿児島探訪」などの共通教育科目を受講されるケースが多いのですが、回を重ね

るに従って、基礎的な授業だけでは満足できず、さらに高度な授業を受講しようという意欲を見せていました。理学部, 工学部, 農学部など専門性の高い講義を受講したいという要望が確実に増えてきています。「もっといろいろな授業を受講したい。メニューを増やしてほしい」という要望がいちばん多かったです。ところが公開授業の「提供科目数」は当初からほとんど増えていないどころか、最近は少しずつ減ってきています。かつては「授業を公開しても、受講生が 1 人もいなかった」という科目の方が多かったのですが、今年度には、受講希望者が多くて受講を謝絶する科目が出てきました。これでは「地域の学習ニーズに大学が追いついていない」という状況です。これからリピーターがますます増えてきます。公開授業の申請について現在、学生部教務課から文書を回してもらっています。締め切りは 7 月 6 日(金)ですので、重ねてご協力をお願いします。

授業については「授業後に短時間でもいいから質問の時間を設けてほしい」という要望も多くの方から出されていました。「共通教育のトイレが使えない, 食事前に手を洗うところがない」など、設備改善に対する注文もありました。事務職員の丁寧な対応を望む声もいくつかありました。今の仕組みでは「各学部の事務局には、学期の繁忙期に公開授業の手続きがのしかかるばかりで、事務局には何のインセンティブもない」ということになっています。この点についても、今後検討をすすめます。

受講生の選択肢を増やすためにも、これまで開放されていなかった先生方を含めて、ぜひともご協力をお願いします

第2回 シニア短期留学が終わりました

生涯学習教育研究センターでは、6月4日から6月15日まで、第2回シニア短期留学を実施しました。

参加者の感想から

- 「学生食堂で、法文学部2人と工学部2人の学生さんと気軽にお話ができ、とてもうれしかった。総合教育研究棟の入口で、一人の学生さんに『こんにちは』と声をかけられて、なごやかな気持ちになりました」。
- 「大学の短期留学は鹿児島の特性を知ることにあるのは勿論であるが、それが第4日の自然林ウォーキングにあるとは思ってもよらなかった。レクリエーションとして最適ぐらいにしか思っていなかったが、その構想や目的を聞かされるに及んでその雄大な発想ややり方に驚いてしまった」。

今回の参加者は20人で、最高齢は89歳の男性でした。おかげさまでたいへん好評なうちにすべてのプログラムを無事、終了することができました。ご協力くださった職員、関係者のみなさんにお礼申し上げます。昨年のプログラムと変えた点は、(1)最終日近くに、「かごしまルネッサンスアカデミー」の受講者との交流を図る特別ゼミを開いたこと、(2)宿泊先のホテルに会議室を確保し、希望者を対象にした交流会を3回開いたことです。昨年、「地元の人たちとの話を聞きたい、受講者同士の交流をしたい」という声があったので、それに応えるために企画しました。やっぱり、いちばんおもしろいのは〈人〉なんです。

昨年同様、すべてのプログラムが終了したところで、「すてきな授業ベスト3」を選定してもらいました。

昨年とは順序がちがっていましたが、「ベスト3」に選ばれる授業には、みな共通する要素があるようです。「地域の課題を解決するための研究を基礎にしていること」、「わかりやすくしていること」、「なによりも研究者自身が楽しんでいる雰囲気が伝わること」です。やっぱり、いちばんおもしろいのは〈人〉なんですね。

参加者には、毎日レポートを提出してもらいました。企画する側としては〈よかれ〉と思ってやったことでも、思わぬ行き違いがあります。そういう点にいても率直に意見を書いてくださいました。こうしたノウハウをもとに、これからも〈日本一充実した鹿児島大学のシニア短期留学〉をめざします。

かごしまルネッサンスアカデミー

鹿児島大学と鹿児島県が連携して、鹿児島の地場産業を支える社会人のリカレント教育（再教育）の新しい教育プログラム事業「かごしまルネッサンスアカデミー」（H18年文部科学省科学技術振興調整費「地域再生人材創出の拠点」採択）が昨年11月に開講、まもなく第1期生が修了式を迎えます。生涯学習教育研究センターでは、当アカデミーに開設された3つのコースのうち一つ、「健康・環境・文化コース」（定員30名）を担当する中心部署として、カリキュラムの作成やその実行に取り組んでおります。当コースの受講生は、現役の醸造企業関係者のみならず、自治体職員、個人事業者、主婦、退職者など多様なバックグラウンド・関心をもった方で、「鹿児島をなんとかもっとよくしたい！」「そのために自分も何かやりたい！」といった熱い思いで参加されています。当センターでは、その思いを具体的な形にしていける力を獲得できるよう、学内外の講師をコーディネートしながら「学びの機会」を提供し、サポートしています。8月25日（日）午後1時から



農学部附属高隈演習林において「水循環」の実習に参加する受講生たち

は、ドルフィンポート・ホール1にて、当コースの修了課題発表会「めざせ！かごしまルネッサンス-32人のプロジェクト」を開催します。平日の夜間、土日を使って、鹿大での座学と実習をあわせて72コマ以上をこなした社会人パワーをぜひ体感しに来てください〜♪。